

教えて！先生 日本人形の衣裳に迫る

第12回
男性の装束
〜東帯〜

日本人形の衣裳にとことん迫る本企画。人形の衣裳に使われている文様や生地はもちろん、着せ方についても詳しく解説していきます。業界のスペシャリストを講師に迎え、衣裳の基礎から応用まで教えていただきます。知識の習得や再確認、セールストークにお役立てください！
今回は男性の装束に焦点を当て、第一礼装である「東帯」について調べました。

——今年桜の開花が少し遅かった影響で入学式や入園式にピツタリのタイミングで満開になりそうです。都内は外国人の姿を見ない場所はないほど観光客が多いいです。京都は東京より多いのではないのでしょうか。

さて今回のテーマは男性の衣裳についてです。現在放映中のNHKの大河ドラマ『光る君へ』の衣裳が見事できらびやか。位や年齢によって衣裳の色合いが違ったり、TPOに合わせて服装を変えたりする様子は大変勉強になります。すし、有職文様も気になります。これまで女房装束の十二単を取り上げましたが、男性の衣裳に使われる文様についても興味があるため調べてみました。

まず男子の装束も女子の装束と同じようにさまざまな種類がある。フォーマルから一般的、カジユアルの順番でいくと次のような並びとなる。
「東帯」「衣冠」「直衣」「狩衣」
これらの装束を時と場合に応じて選んで着用していた。さまざまな有職文様が用いられていた。

東帯

東帯は第一礼装で、公卿や殿上人が宮中に参内するときに着用した正式な装束。重要な儀式の際に用いられた。「男性装束の華」と呼ばれ、活動性よりも見た目の美しさが重視された。

松井さん 雛人形の男雛の美しさは、東帯の美しいシルエットをは

じめ、重ねの色目からも男性の衣裳の色気が表現されています。女房装束の重ねの色目は衣も重ねて色のグラデーションを楽しみますが、男性装束も同じく表と裏や上と下の色目によって透けて見え、複雑な色合いが生まれます。四季をもつ日本ならではの美的センスが光る部分です。

◆東帯の区分

東帯には種類があり、公卿や文官が着るのが「縫腋の袍」と呼ばれるもの。一方、四位以下の武官が着用するのが「闕腋の袍」と呼ばれるものである。この二つに大別されるが、大きな違いは上着である袍のサイドを縫っているかどうか。武官はサイドが縫われていないタイプで活動しやすい闕腋の

袍を用いた。

松井さん 上着である袍は位階によって色が決められていて、文様も平安時代末期には位階や家によるルールがほぼほぼ定められたと言われています。次頁の表が参考になります。

◆袍の色と文様

東帯に用いる袍を「位袍」と呼ぶ。闕腋の袍は「襖」とも呼ばれるため、「位襖」と称された。

色と文様は時代により変遷があるが、平安末期頃にはほぼ現在に伝わる位階や家による定めが固定した。臣下一位から五位までの文様は各家通用が「輪無唐草」（源家、平家、花山院、三條、日野、勸修寺など）と「轡唐草」（西園寺、徳大寺、花山院、四條、菅家

松井幸生さん
株式会社善助商店社長
Matsui Yukio

金襴織物・裂地の製造卸商を営む。菅田屋勤兵衛から数えて13代目。京人形商工業協同組合副理事長。平成12年伝統的工芸品産業審議会臨時委員長任命。翌年、伝統的工芸品産業の奨励賞を受賞した。

今日の先生





輪無唐草



縹色の織物



はなだいろ
縹色

など) だったが、大臣に任官した者は「異文」と称して各家独自の文様を用いた。室町時代の記録では、丁子唐草・竜胆唐草(撰家)、大亀甲遠文(三條)、長命唐草(西園寺)などがあり、他に近世では公家各家でさまざまな異文が定められていた。

松井さん 輪無唐草は雛飾りの右大臣と左大臣に使用されている生地でもあります。



束帯のイメージ (画像提供: 京人形商工業協同組合)

◆**束帯の生地**

冬の表地は「綾」。古くは「しじら綾」、老人は「髪斗目綾」と書かれているが、その実体は不明。裏地は平絹で、色は黒袍赤袍については表と同じ。縹袍(色は上記参照)の裏は蘇芳。端袖は表地を内側に折り返す。

夏は色柄は冬と同じで裏なし。生地は薄物で、五位以上は「顕文紗文毅」という織り方。六位以下は文のない毅織だった。

参考文献

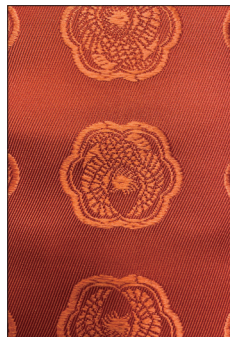
- ・ 仙石宗久著『十二単のはなし―現代の皇室の装い』(オクタブ、1995年)
- ・ 八條忠基著『有職装束大全』(榊平凡社、2018年)
- ・ 八條忠基著『素晴らしい装束の世界』(誠文堂新光社、2005年)
- ・ 鈴木敬三編『有職故実大辞典』(株吉川弘文館、1996年)

【表】位袍の色彩と文様

着用者	色彩	文様
天皇 (重儀)	黄 (黄檗染)	桐竹鳳凰麒麟
天皇 (軽儀)	青 (麴塵)	桐竹鳳凰麒麟 (室町後期から江戸末期までは尾長鳥唐草)
皇太子	黄丹	窠の中に鴛鴦
上皇	赤色 (場合により青色)	窠の中に桐竹、菊唐草など
親王	黒 (場合により青色や赤色)	雲鶴 菊唐草に「窠の中に八葉菊」など
関白		雲立涌
摂政・太閤	黒	雲鶴 夏は臥蝶丸など
一位から四位		有文
五位	深緋 (ふかひ)	有文
六位以下	縹 (はなだ)	無文



黒雲立涌



窠中鴛鴦



麴塵桐竹鳳凰麒麟



黄檗染桐竹鳳凰麒麟